

野外運動研究室ニュースレター

編集:野外運動研究室広報係
発行:筑波大学体育科学系野外運動研究室
〒305-8574 つくば市天王台 1-1-1
TEL&FAX:029-853-2729
E-mail:http://124.40.16.67/wordpress/?page_id=2

< 巻頭言 >

熱く長い夏が過ぎて

吉田 章

山梨大学で日本野外教育学会を開催している最中に、静岡県立三ヶ日青年の家でのカッター事故の報道が入って来た。昨年は、国立大隅青少年自然の家でのカヌー事故が夏の始まりであった。シーズン初めの事故に影響を受けなければ良いがと思っていた矢先に、今度は国立大雪青少年交流の家で一晩を越す行方不明者が出た。これら全国の国公立青少年教育施設は、我が国における野外教育最前線として重要な働きを成している。ということはその影響力も大きく、活動の停滞に繋がらなければ良いがと思いつつ今年の夏を迎えた。

しかしながら活動の停滞どころか、山の事故水の事故ともに増大の傾向にある。秩父での救難ヘリ墜落事故は、一人の女性が滝壺に滑落したことに始まり、四重事故にまで発展してしまった。今年の事故の傾向は、沢筋関係に多く発生しているようだ。従来、山の事故は下山途中の道迷いに多くのケースを見て来た。ところが今年の事故は、どうもそのパターンに変化が見られる。それは今夏特有の気候と雨の降り方によるもの、そして山ガールやシルバートレッカーといった層を中心とした普及によるものがあるのではないだろうか。

もちろんこれらは新聞報道された範囲での事故であり、ハインリッヒの法則をもって推測すれば、1件の重大な事故の背景には、同種の約30件の軽微な事故があり、約300件ものヒヤリ・ハット事例が存在すると言う。我々にとって最も大切なことは、身近な場面におけるヒヤリ・ハットを見過ごさないことである。沖縄では、1983年以来2件目の鬼オコゼ類による死亡事故が起きた。ということは、600件のヒヤリ・ハットがあったことになる。その他にもウミヘビ8件、アンボイナ貝6件、ハブクラゲ3件の死亡事故がこれまでに報告されている。心して水辺実習を迎えたい。

同様な意図を表現していると思われる Think

Globally Act Locally の標語は、もはや浸透した。9月にはJOC主催「スポーツと環境」シンポジウムに参加した。各種スポーツ団体からの環境活動の報告があったが、正直な所今ひとつ物足りなさを感じた。スポーツ団体はこれまで決して環境のことを考えてこなかった訳ではない。しかしそれらは「スポーツの環境」と表現するに相応しく、「スポーツで環境」といった取組みを進めることの提案をした。スポーツ界でも最もその環境に敏感であるべき我々野外活動家として責任を持った行動を実践したい。

< 研究室関連授業 / 研究室内連絡 >

◆UG 関連授業

- 海洋スポーツ 2学期 火曜 3限
- 野外運動(実技理論) 2学期 金曜 1,2限
- 野外運動方法論演習Ⅱ(水辺) 2学期 木曜 4,5限及び集中
- 野外運動方法論演習Ⅳ 2,3学期 水曜 3限

◆DC 前期課程関連授業

- 野外教育・スポーツ基礎理論 2学期 月曜 3限
- 野外教育・スポーツ評価研究法Ⅱ
2学期 月曜 4
- 野外教育・スポーツ実習Ⅳ(セラピューティック・プログラム) 2学期 集中

◆入試情報

- DC 前期課程(一般入学試験・社会人特別選抜10月期)

出願期間: 9月14日(火)~16日(木)

学力審査日: 10月21日(木)

合格発表: 11月9日(火)

< 課外活動関連報告 >

- 1学期勉強会・まとめ

江越喜代竹 (MC2)

6月29日に1学期の勉強会のまとめを行った。1学期は「夏に向けてスキルアップしていこう!」というテーマのもと、5回を実施することができた。全体をふり返って、リスクマネジ

メントをしっかりとやりたい、スタートを早くして回数を確保したい、などの意見があり、次につながる時間となった。

1学期は「夏に向けてスキルアップしていこう!」というテーマで8回を計画し、そのうち5回を実施した。全体を通してよかった点としては、春の整備実習のやり残しができたこと、授業で扱えない内容をフォローアップできたことなどがあがり、課題点としては、スタートが遅く、回数がしっかりと確保できなかったことや、「夏に向けて」というテーマとやや離れた内容があった、などの意見が出された。以上を踏まえて、2学期は、学群生が来やすいように専攻生実習をターゲットにした内容構成にする、フィールドに出る機会を増やす、という意見があがり、2学期以降を意識したふりかえりを実施することができた。1学期は何かと行事が入ることが多く、バタバタしてしまいがちになる。だからこそ、事前にしっかりと準備をして、質を高めていくこと、そして、そのために早め早めで呼びかけていくことがコーディネーターの役割だと感じた。2学期ももっと充実させて、お互いに高め合っていければと思う。

○ 古賀志山フリークライミングツアー

江越喜代竹 (MC2)

7月14日、15日と古賀志山クライミングツアーを実施した。天気予報では不安が残っていたものの、望みをかけて行ってみた。しかし、天気は回復せず、近くのジムでボルダリングに挑戦した。夜はキャンプ場に戻って交流会を行い、親睦を深めた。15日も天気が悪かったため、予定を切り上げてつくばへ。片づけを行ったあとに、スポーレで汗を流した。外岩ならではのダイナミックさ、恐さ、それを乗り越える達成感を味わってほしくて企画したツアーだったが、天候に恵まれず、残念だった。急な予定変更でバタバタしてしまい、参加者には迷惑をかけてしまった。しかし、クライミングに燃えるたくさんの仲間と出会えたことがとてもうれしい時間となった。後日、都合のつくメンバーでリベンジをすることもでき、クライミングの楽しさを少しでも伝えられたのではないかと思う。今後もたくさんの人たちと、クライミングを通し

てつながっていききたいな、と感じたツアーとなった。

○ 藤村女子高等学校キャンプ実習

沖田啓二 (UG4)

7月5日(月)～9日(金)の日程で、藤村女子高等学校のキャンプ実習が、長野県にある八ヶ岳学習舎で行われた。参加した生徒は、藤村女子高等学校スポーツ科学コース1年生の56名。プログラムとしてはテント生活、野外炊事、沢歩き&野外ゲーム、登山、キャンプファイアーなどを行った。

藤村女子高等学校の生徒はみんな元気いっぱい色々なプログラムを積極的に行っていた。特にキャンプ2日目に行われた沢歩き&野外ゲームでは、班のみんなと協力して楽しそうに取り組んでいたのが印象的だった。

キャンプ3日目の登山では、途中迷子になってしまった班もあったが、全員無事に下山できた。

個人的には、カウンセラーとして班のみんなと楽しく過ごすこともでき、よい経験が出来たと思う。元気いっぱいの高校生に圧倒されつつ、たくさんパワーをもらえたキャンプとなった。



○ 教員免許更新講習会

藤岡良仁 (MC2)

8月5日筑波大学野生の森、及びクラブハウスにて「体育からの発信!体験の重要性から総合的な学習の時間を見直す」と題して吉田章先生の下、教員免許状更新講習が行われた。補助スタッフとして、野外研から栗本先生と藤岡、江越、志賀の学生3名が関わらせて頂いた。

当日は39名の小・中・高・特別支援学校教諭の方々が来られ、午前中は室内にて体験学習に関する講義を受講し、その後は5グループに分かれて昼食は野外炊事によるそうめん作り、午後はNature Activityとして「私の木」Adventure Based Activityとして「ラインナップ」や「くもの巣」などを行った。野外炊事では若干火起こしに苦勞するグループも見受けられたが、先生方なだけあり、どのグループも協力して手際よく昼食作りを行っていた。

また午後の活動に対しても成功すると歓声が上がったり、失敗して悔しがったりする様子な

ど、非常に熱心かつ真剣に取り組んでおられた。

体験の重要性をまさに体験を通して実感された先生方も多かった様子で、実際の学校の現場でも生かしたいという声も聞かれた。ぜひ学校現場においても体験学習や野外教育の重要性を広め生かして頂ければと思う。

○ 花山キャンプ

中川佳美 (UG3)

今年も幼少年キャンプ研究会主催の花山キャンプが宮城県栗駒市の花山で行われた。今年は例年より少ない2コースで、8月8日～12日に幼児から小学4年生対象のBコース、8月17日～24日に小学5年生から高校3年生対象のCコースを行った。Bコースでは、体調不良のキャンパーが続出しながらも、3日目には回復し、全員で登山をすることができた。Cコースでは、“栗駒山復活”という記念すべきコースで登山初日は天候が悪く、復活した栗駒山の風景を楽しむことはできなかったが、登山2日目はみんなの頑張りが通じたかのように朝から快晴で雲海が見えるほどだった。

私は今年が花山キャンプ、初参加だった。Bコースは幼児班のカウンセラーをし、正直大変なことばかりだったが、それ以上にキャンパーの笑顔がたくさん見られたことでカウンセラーをしてよかったと思え、また参加したいと感じることができた。

Cコースでは中学生班のカウをし、Bコースとは異なる「一緒に楽しむ」ということができた。栗駒山での朝の風景はものすごく感動し、山のすごさも知ることもでき、Cコースもまた参加したいなと思った。軽い気持ちで参加した花山キャンプで想像もしていなかったものを得ることができ、参加してよかったと思う。また今後の活動に役立てていきたい。

○ 旅キャンプ

志賀亮太 (UG4)

8月7日(土)～8月24日(火)の17泊18日の日程で「旅キャンプ2010～Road to Self」が行われた。坂本先生をキャンプ長とし、野外研OBを中心としたスタッフ5名に、キャンパー6名、計11名でのキャンプとなった。途中、諸事情により、キャンパーが1人減ってしまっ

たものの、大きな事故などもなく全行程を終えることが出来た。

プログラムの概要としては、マウンテンバイクを主な移動手段として、つくばを出発し、途中、沢登りやカヌー、クライミングなどのアクティビティーを行い、さらにメインとなる1泊2日の富士登山を経て、富士川河口を目指すというものである。

このキャンプは、今まで私が経験したキャンプの中で、最も子供たち自身が考える時間というものが多くあったように思う。マウンテンバイクのルート選択や食事作り、起床・出発時間の決定も、こちらが最低限の情報を与えた上でキャンパーが行うというものだった。

キャンパー同士の話し合いや活動の中で、私が思ってもいないような発言や行動があったりもした。キャンパー同士で様々な関係性と持ちつつ、1つのグループとして活動していく姿がとても印象に残っている。キャンパーの行動1つ1つに対して、「なぜ、そのようなことをしたのか」など考え、とても密にキャンパー1人1人と関わることが出来た。

このようなキャンプは今まで経験がなかったので、とても良い経験になった。今後も出来るだけ多くのキャンプを経験し、その中で自分のやりたいキャンプの形を考えていきたい。そして自分がキャンプをつくる立場になったときに、それが実現できればと思う。

○ S級コーチ養成講習会 ASE

日比野功宜 (UG4)

8月26日(木)に筑波大学野性の森でS級コーチ養成講習会A.S.E.が行われた。参加者は25名であった。講習会の流れとしては、まず準備運動、導入ゲームを行い、その後A.S.E.、まとめ、最後に懇親会というものであった。

私自身は装備食料として今回の講習会に参加したので、実際に指導を行ったわけではないが、食事を作っている合間などに少し見学もした。見学をしていて感じたのだが、やはり元Jリーガーや競技スポーツをされていた方がほとんどだったので、非常に活気があり、いい意味で特異な集団であると思った。サッカーはチームスポーツということもあり、互いに協力し、意見

を出し合い、常にコミュニケーションをとりながら課題に取り掛かっていたのが印象的であった。

A.S.E.後の懇親会のほうは、今年の酷暑の影響もあったからか、飲み物が足りなくなり、追加で買い出しに走ったこと以外は、順調に行えたと思う。毎年、食事の量も参加者によって異なり、なかなか読めないというお話を聞いて、今年はずまずの出来であったのではないかと感じた。社交的な方が多く、非常に賑やかな講習会となった。

<課外活動関連告知>

○ 自然体験活動青年ミーティング 2010

主催：社団法人日本キャンプ協会

日程：9月18日（土）～20日（祝）

会場：川崎市黒川野外活動センター

参加費：13,000円（食費、宿泊費、教材費、保険料など含む）

○ 自然体験活動指導者養成講習会

対象：小学校での自然体験活動の指導にかかわる意志を持つ20歳以上の方

日程・会場：

10/1～3 滝野自然学園（北海道札幌市）

10/22～2 もみのき森林公園（広島県廿日市市）

10/29～3 大阪府立総合青少年野外活動センター（大阪府能勢町）

11/21～23 静岡県立朝霧野外活動センター（静岡県富士宮市）

1/8～10 千葉市少年自然の家（千葉県長柄町）

参加費：35,000円（消費税込み）

定員：各会場とも30名（先着順・キャンプディレクター2級受講者を含む）

※講習日の2週間前が締切です

問い合わせ先：

社団法人日本キャンプ協会指導者養成係

（担当：戸室・高瀬）E-mail: ncaj@camping.or.jp

<参加者・スタッフ募集>

○ ゴみの資源化プロジェクト

～ECO STATION 建設～・スタッフ募集

- ・ 資源の再利用・エコに興味のある方
- ・ 事業を通して多くの人と関わり、自分を高めたい方

など、大募集

連絡先：日比野功宜（UG4）TEL/080-6927-8087

○ フリークライミングクリニック

この秋、新しいスポーツにチャレンジしてみませんか？大学内にあるクライミングウォールを使って、フリークライミングクリニックを開催します！

主催：筑波大学野外運動研究室

顧問：井村仁先生（筑波大学体育科学系教授）

日時：9月29日（水）～11月17日（水）

前半 18:00～19:30、後半 19:30～21:00

※毎週一回、水曜日の18時から開催

場所：筑波大学 SPEC 1階クライミングウォール

対象：学内の学生、教職員

参加費：無料

内容：初心者、初級者程度を対象としたフリークライミング講習

募集締切：クリニックを行う週の月曜日

（先着順に受け付け、初参加の方を優先させていただきます。前半、後半続けての参加は原則お断りしています。）

連絡先：

野外運動研究室 江越喜代竹

tsukuba.climbing@gmail.com



○ 北アルプス縦走登山ツアー

目的：縦走登山の運営方法及び技術の習得・北アルプスの雄大な自然を味わう

日程：9月17日（金）～20日（日）3泊4日

※9月17日（金）の夕方に筑波を出発して現地にて仮眠。登山自体は18日（土）から開始。

場所：長野県北アルプス山城

（蝶ヶ岳～常念岳～大天井岳～燕岳）

対象：野外運動研究室員および本事業の主旨に賛同し参加を希望する者

予算：参加費 10,000円

（テント場代 1,100円、食費 2,000円、温泉代 700円、交通費 5,000円、予備費 1,200円）

連絡先：岡田成弘（B410にいます）

masa117@mrh.biglobe.ne.jp

<編集後記>

長かった夏もようやく落ち着き、秋の気配も感じてきました。修論・卒論生はこれからのスパート、頑張ってください！その他の方も目標を持ってそれぞれの活動に取り組んでいきましょう！早く雪降れ！！

志賀亮太